

日々往来

福永 憲高



先週日曜日に予定されていた「鳥取マラソン2020」が中止になった。新型

コロナウイルスの感染拡大は、この鳥取でも大きな影響を及ぼしている。

「アマゾンでの1匹のチョウ（バタフライ）の羽ばたきが、テキサスでハリケーンを起す」という話にたとえられる「バタフライ効果」という言葉

感染症との闘い

がある。小さなことがさまざまに波及しツイッターやフェイスブックといった会員制交流サイト(SNS)が登場したのは、中国・武漢で新型コロナウイルスによる感染症が発生したNS上で「〇〇が不足する」、鳥取でマラソン大会が中止に「××がコロナウイルスに効く」になった。これもバタフライ効果といった真偽不明情報が飛び交い、混乱の一因となっている。

新型コロナウイルス感染症は、人類の歴史は感染症との闘いの歴史だ。これまでの闘いに大候群(SARS)と比較される大きな貢献を残した先人の一人に北里柴三郎がいる。世界で初めした点では同じだが、ヒトやモノの移動という点では当時と今では大きく異なる。03年に中国だ。現在準備中の新しいお札(日本銀行券)の千円札の顔はその万人(鳥取県の人口より少ない)北里柴三郎だ。偶然とはいえ心強いものを感じる。みんなで力を合わせてこの闘いに勝つしかない。

ヒトやモノだけでなく情報を取り巻く環境も激変した。スマ (日本銀行鳥取事務所長)